

東京ソーシャルボンドの購入について(令和6年7月5日)

千代田区では、令和6年7月5日、基金の運用を通じてSDGsへの寄与、社会貢献につなげていくため、東京ソーシャルボンドを購入しました。

SDGs（持続的な開発目標）は、国連が提唱したよりよい社会の実現を図る世界共通の目標で、社会、経済、環境の面から17の目標が定められ、SDGs債は、これらの目標の実現のためのプロジェクトに資金が活用されます。

東京都は、令和3年3月にSDGsの理念と軌を一にする『『未来の東京』戦略』を策定しました。人に寄り添い多様性や包摂性に富んだ、人が輝く東京の実現を目指す未来戦略の動きを金融面から加速させるものとして、同年7月に自治体初となるソーシャルボンドを発行しています。

東京ソーシャルボンドは、SDGsの目標でも幅広い課題解決を目的としており、公共施設・インフラの防災対策、老朽化対策、産業・雇用、教育、介護、児童福祉、バリアフリー化の事業に活用されます。発行の都度、これらの中から具体的な充当事業が選定され、第7回となる今回は、公共施設の防災対策、老朽化対策、介護サービスの基盤整備などに重点的に資金が活用されます。

区は自らも社会基盤の整備に取り組み、その過程で関係団体、機関等と連携を図っています。その一環として、東京ソーシャルボンドへの投資により、東京都の各種事業が推進されることを通じて、生活基盤の向上、社会問題の解決に寄与していきます。

本債券は、国際資本市場協会(ICMA)の定めるソーシャルボンド原則に適合している旨の外部評価を格付投資情報センター(R&I)から取得しています。

東京ソーシャルボンドの購入は、令和5年7月に続き、合計2回目となります。千代田区は、今後も東京ソーシャルボンドをはじめ、SDGs債への投資で基金の一部が活用されることにより、SDGsの実現を目指していきます。